

天理市埋蔵文化財センターだより
Vol. 4

特集『行ニラ! 黒塚古墳展示館』



夏の文化財展

『発掘の現場から-地下に眠る天理の昔々-』

2007年8月10日(金)~31日(金)

*月曜日は休館日

天理市文化センター1階展示ホールにて

天理市教育委員会 文化財課

2007. 8. 10



特集

行こう！黒塚古墳展示館



天理市柳本町黒塚古墳は三角縁神獣鏡を多数出土したことで全国的に有名な古墳です。今回の「センターだより」誌面では、平成14年に開館した黒塚古墳展示館をご紹介します。



黒塚古墳は平成9～11年に発掘調査がおこなわれました。現在は史跡公園として広く親しまれています。古墳頂上からは箸墓古墳などを望むことができます。

展示館1階には黒塚古墳の発掘調査成果を写真パネルでわかりやすく紹介しています。床面には古墳群の航空写真をはめ込んでおり、古墳の形が一目でわかります。

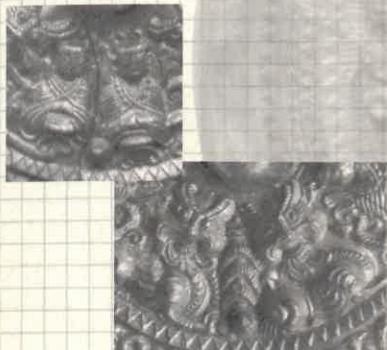


黒塚古墳の竪穴式石室を発掘当時の姿そのままに復元しました。床面は未盗掘で、副葬品が手つかずの状態で残していました。

合掌式と呼ばれる石室の形が天井付近までよく保存されていました。石室に用いられた石材には板石と川原石があります。復元には本物の石を使用しています。

古墳から出土する鏡には数々の種類がありますが、そのなかでもっとも多いのが三角縁神獣鏡です。日本では400面近くが見つかっています。中国（魏）から邪馬台国の女王卑弥呼に与えられた「銅鏡百枚」にあたるとされていますが、論争にはいまだに決着がついていません。

黒塚古墳からは国内最多の33面が出土しましたが、その全てを展示しています(複製品)。



三角縁神獣鏡には中国の伝説上の神様や動物の像が表現されています。



当時の鏡を再現しました。手にとって現代の鏡と比べてみましょう。



記念スタンプ。モデルとなつた8号鏡の図柄は黒塚古墳でしか見つかっていません。



展示館では記念品・図録・市内遺跡の調査報告などを販売しています。



古墳時代の石棺も展示しています（黒塚古墳のものではありません）。

天理市立黒塚古墳展示館

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 毎週月曜日

（月曜日が祝日の場合は月・火曜日）

祝日

年末年始（12月28日から翌年1月4日）

入館料 無料

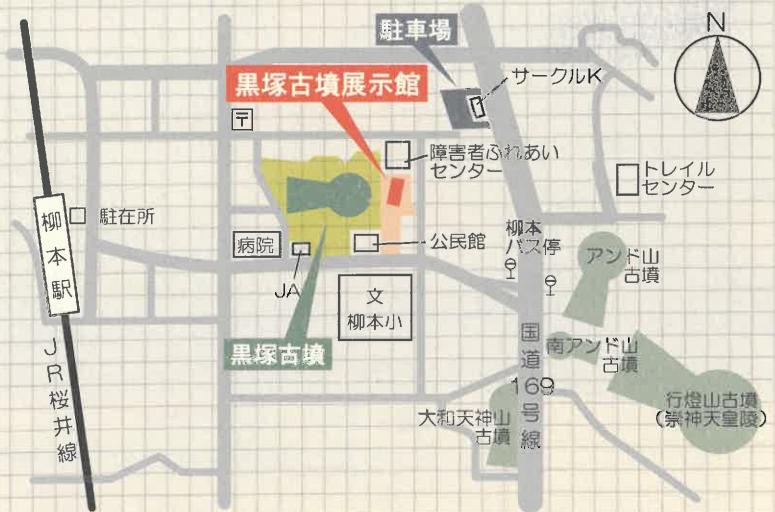
住所 天理市柳本町1118-2

電話番号 0743-67-3210

交通 JR桜井線柳本駅 徒歩7分

奈良交通柳本バス停 徒歩4分

駐車場 国道169号線沿いサークルK内



※ 今回の紙面は、黒塚古墳展示館にて展示中の複製品・模型・パネル等の写真で構成しました。

出動! 発掘現場レポート!!



平成18年度にも市内各地で開発行為の事前調査や範囲確認を目的とした発掘調査を実施しました。ここでは、平等坊・岩室遺跡での発掘調査の成果について簡単に紹介します。

■平等坊・岩室遺跡第29次調査-岩室町

国道25号線とローレルコート天理前裁マンションとの間の土地区画整理事業に伴って調査しました。調査地は弥生環濠集落の中心に近い居住域にあたるため、多くの弥生時代の生活痕跡を示す遺構が見つかることが予想されました。

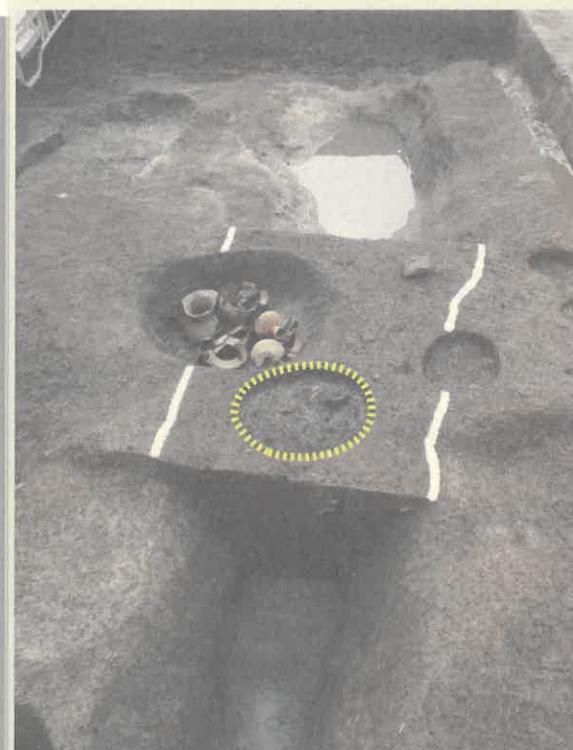
調査では、最初に弥生のムラが形成された弥生時代前期前半頃の環濠の溝やムラの内部での自然環境や地形の変化を示す川跡がたくさん見つかりました。こうした当時のようすからムラの内部では居住可能な微高地と川べりの低地などがあり住みやすいところとそうではないところとに分かれていたことが判りました。そしてこうしたムラの景観は古墳時代の初め頃まで続いていることも明らかとなりました。

また、この調査では通常は前期大型古墳の副葬遺物とされる腕輪形石製品(鍤形石)が集落内の土坑に納められた状態で出土しました。鍤形石は先端部分が意図的に切り取られており、付近の同時期の遺構のようすから川べりで何らかのお祭りをした後に穴に埋められたものと考えられます。

これまでの平等坊・岩室遺跡の調査では、集落北東の高台にこのムラの首長の住まいと考えられる濠に囲まれた方形の区画が見つかっており、鍤形石はその主との関係が濃厚な遺物と言えます。集落での出土は全国的に見ても初めての発見であり、とても貴重な資料となるものです。



■平等坊・岩室遺跡
第29次調査地の全景（南から）



■鍤形石が出土した土坑と周辺の遺構



■鍤形石の出土状況

